特集

エディトリアル

市立恵那病院 内科部長　山田誠史

さて，今回の特集は“地域医療の楽しみ方”である．何をいまさらといった感覚を持たれる方もおられると思うが，仕事を継続する上で，息抜きをする部分や余暇の楽しみ方は非常に重要である．いくら情熱を持って仕事をしようとしても四六時中気を張っていては燃え尽き症候群のようになってしまう可能性があるし，それ以前に体ももたないであろう．また地域医療に対するネガティブなイメージとして「地域にずっといなければいけないのではないか（プライベートな時間が制限されるのでは）」「医師としてのスキルアップやキャリアアップに対する不安」「（子供がいれば）教育に対する不安」といったことが挙げられる．今回は地域で活躍されている先生方に，地域でどのように医療と自分の生活を両立しているか，地域ならではの楽しみ方などを紹介していただき，これから地域医療の現場を目指す者に対し，肩ひじ張らず，気楽にやっていこうよといったメッセージが送れるとよいと思い企画した．ただもちろん，その地域にいないと地域医療ができないというわけではないので誤解のないようお願いしたい．

本特集では地域でご活躍されている，６人の医師の方々に執筆を依頼した．年齢や地域もさまざまであるが，どの先生方も本当に地域が好きなのだと感じられる内容となっている．本文の中にあるように，患者さんの生活環境や，亡くなった後の家族の様子など，地域でないと得られない情報などについても再認識させられた．現在地域医療に従事している方は共感できるところが多々あると思うし，地域を目指している方にとってはさらなるモチベーションの向上につながるかもしれない．また市川京子先生には，結婚，出産，育児といった女性医師ならではの事情について述べていただいた．小生も地域に赴任しているときに結婚し，子供も生まれたが，地域の方々には本当に良くしていただき子育てをするのにはよい環境だと思っている．

“地域医療の楽しみ方”は，地域の特徴や，本人のライフスタイルなどによって千差万別である．自分がもし今地域へ行くようなことがあったら，おそらく以前とは違った楽しみ方があるに違いない．執筆者の先生方には失礼な言い方かもしれないが，今回の特集はソファで寝転がってでも，リビングでお酒を飲みながらでも気楽に読んでいただければと思う．